

かかやき通信

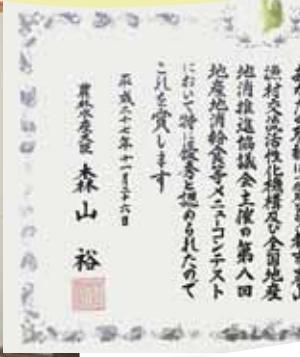
彦根市立病院広報誌

2016.3
vol.14

彦根市立病院は、今年で創立125年です



農林水産大臣賞 受賞おめでとう



賞
状

彦根市立病院歴
委員会 賞賛食料安全部門

あなたの取組は二輪車普及率全国1位、
地元交流活性化協議会全国1位、
地消連協議会全国1位の第八回
地産地消給食等メニューコンテスト
において特選受賞されましたので
これを賞します。

平成二十七年十一月六日
農林水産大臣 森山 裕



住みなれた地域で健康をとどめ
安心とぬくもりのある病院

CONTENTS

ごあいさつ	1
看護部だより「スマイル」	2
脳神経外科の特長とその取組	3
知って得する病気の話	5
院内探検隊	7
産婦人科医の就任あいさつ	9
楽楽(たのらく)通信	11
「地産地消メニュー」表彰	13
第19回健康講座	15
小児科病棟クリスマス会	16
糖尿病連続講座・糖尿病教室	17
中学生の職場体験	18
緩和ケアかわら版	19
新認定看護師の紹介	20
医療社会部だより	21
部門紹介『医療相談室』	22
院内助産所	23
これであなたも10歳若返る!?	24
がん相談支援センターからのお知らせ	25
アメニティセットのご案内	25
彦根市立病院の経営改革	26

- 1 湖東保健医療圏の総合的医療センターとして高度な医療を提供する
- 2 安全性、信頼性の高い良質な医療を提供する
- 3 患者の権利と満足度に配慮した患者中心の医療を提供する
- 4 地域の病院・診療所と役割を分担し、保健・福祉分野を含めて連携・協力する
- 5 教育・研修機能をもつ地域に開かれた病院をめざす



住みなれた地域で 健康をささえ、 安心とぬくもりのある病院

事務局長 山口昌宏

本院は、明治24年4月26日に、公立彦根病院として内科と外科の2診療科、ベッド10床で五番町（現在の本町二丁目）に開設され、10年後に彦根城のお堀の近く（現在の京橋口駐車場）に移転し、昭和12年2月の彦根市誕生に伴い彦根市立病院と改称されました。平成14年7月には現在の八坂町に移転新築し、約14年になります。全国の公立病院としては10番目に古い歴史を誇る病院で、本年4月26日には創立125年を迎えることになります。



看護部「スマイル」



手術看護認定看護師
北村月見

私は手術センターに所属し活動しています。手術を受ける全ての患者さんが、安全で安心して手術を受けられるために、二次的合併症を予防し、術後の回復過程を促進するよう、術中看護を実践しています。術後の回復過程を促進するために手術体位や体温、清潔操作などの専門的知識と技術をもち、根拠を持った看護実践をしていくことが果たすべき役割です。手術は非日常的な個別的な体験です。手術看護認定看護師は、患者さんに安全・安心な手術を受けさせていただくために、執刀医、麻酔科医、看護師、臨床工学技士ら各スタッフが専門性を發揮できるように調整役を担っています。「手術創以外に身体と心に傷を作らない、安全でやさしい手術看護」を目標に、周術期を通して患者さんとご家族に対する手術看護を実践しています。また、日々進化する手術医療に対応するために、手術部全体でレベルアップし、高水準の看護を提供で



きめ細やかな活動しています。日々、高度化する医療に対応できる専門的知識と技術を研鑽し、患者さんのニーズに合った看護を提供できるよう努めています。学会やセミナーに参加して他施設の看護師と情報交換をして手術看護の質の向上に貢献しています。



日本手術看護学会近畿地区
麻酔教育セミナーでの
講演の様子



ご家族とともに笑顔が見られたときなどに、やりがいを感じます。

手術中、全身麻酔のかかった患者さんは、「痛い」、「暑い」など、自分の思いを表出する事ができません。また、病棟とは違い、家族もそばにいることができません。そのような多くの不安を抱えた患者さんや家族の気持ちを代弁し、自分だったらどうして欲しいか、家族だったらどうして欲しいか、を常に考えています。そして、手術が安全で安楽に経過し、合併症を起こすこと無く、少しでも早く家族のもとへ戻れるように関わっています。手術が終了したときの患者さんのホッとした表情や術後訪問などで

したが、昨年11月に第8回地産地消給食等メニューコンテストにおきまして、学校給食・社員食堂部門の最高賞となる農林水産大臣賞を受賞することができ、これまで努力してきた関係スタッフの益々の励みとなっています。

このことは、医療費の増大のほか、介護施設を含めたベッド数が不足することとなり、在宅での介護等が増えることを意味するとともに、老老介護の問題も顕著になってきます。

本院としては、他の病院や地域の診療所の方々、また、介護や福祉に携わっておられる方々とも連携を強めるこにより、誰もが安心して医療の提供が受けられる環境づくりを進めるなど、地域に期待される病院であり続けられるよう努力してまいりますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひします。

また、本院は、彦根市をはじめ、犬上郡・愛知郡を含む湖東保健医療圏の中核病院として、24時間365日の救急対応をはじめ、高度な検査や処置が必要となる急性期の患者さんに対応できる病院としてその役割を果たしているところです。平成19年4月から医師による分娩を休止せざるを得ない状況となり、市民の皆様をはじめ湖東保健圏域の皆様方には、大変ご心配をおかけして

おりました産婦人科医師確保につきましては、昨年12月に2名の医師を迎えることができ、医師による分娩再開に向け準備を進めているところです。その他のうれしいお知らせとしては、平成24年度から病院食の地産地消に積極的に取り組んでおり、入院患者さんから「おいしいです。」とのお声をいただいております。

さて我が国は、平成20年をピークとして人口減少局面に入っています。彦根市でも平成25年12月をピークに人口が減少しています。国立社会保障・人口問題研究所の人口予測では平成22年と30年後の平成52年を比較すると、彦根市全体の人口は約9千人減少するのに比べ、65歳以上の人口は約1万1千人増加し、約3人に1人が65歳以上となることが予想されています。

*1 周術期 入院、麻酔、手術、回復といった患者の術中だけでなく前後の期間を含めた一連の期間



井坂文章
脳神経外科部長統括

今回から5回にわたって、(表1)のようなタイトルで彦根市立病院脳神経外科の紹介と当科が実際に行っている診療内容について、お話ししていきたいと思います。

表1 彦根市立病院脳神経外科の診療スタンスについて	
第1回	彦根市立病院脳神経外科の診療スタンスについて
第2回	脳血管障害に対する当科の取組 その1 脳梗塞について その2 脳動脈瘤について (偶然発見された場合とくも膜下出血の場合) その3 その他の脳・脊髄血管の病気について
第3回	当科の脳腫瘍・脊髄腫瘍に対する取組
第4回	頭部・脊髄・脊髄外傷に対する取組
第5回	水頭症、その他に対する取組

第1回目の今回は、「彦根市立病院脳神経外科の診療スタンスについて」です。

脳神経外科とは

そもそも脳神経外科とは一体、どんな病気を診ている科なのでしょうか？日本脳神経外科学会のホームページによると、日本において

高度な医療技術と判断能力を湖東医療圏へ還元 このような使命を肅々と実践する現スタッフは、救急疾患として頻繁に遭遇する脳血管障害、脳・脊髄外傷に、迅速且つ「高度の医療」を持って対応できる確かな判断能力を身に着けた技能集団です。我々は彦根に派遣されるまでは、関西圏に存在する大規模基幹施設において厳しい訓練と教育を受け、必要な技能を獲得してきました。そして、救急において迅速かつ確実に対応できる能力は、上記のような神経系救急疾患は言うに及ばず、外来で遭遇するような、あまり急ぐ必要のない疾患・・・(例えは、偶然見つかった脳腫瘍や脳動脈瘤、三叉神経痛、顔面けいれん、頸椎ヘルニア等・・・)についても十二分に対応できる能力を身に着けているということを意味します。これは自慢でもなんでもなく当たり前のことで、一つの診療科を任せられるためには最低限必要なことであります。患者さん、そして開業医の先生方には、彦根市立病院脳神経外科の一人ひとりが高いモチベーションを保ちながら、日々努力しているスタッフで構成されており、持てる能力を湖東医療圏に還元するために派遣されていることを知っています。

私自身は日本の脳神経外科医のレベルは概して高く、どこで治療を受けても一定以上の成果を上げることができます。

ただ当科が他施設と異なる点があるとするならば、それは京都大学脳神経外科スタイルの指導と教育を受けたスタッフがいて、本丸で

る「脳神経外科」の定義は、「脳、脊髄、末梢神経およびその付属器官（血管、骨、筋肉など）を含めた神経系全般の疾患のなかで、主に外科的治療の対象となりうる疾患について診断、治療を行う医療の1分野」とされています。極めて単純に言うと、脳神経外科は「脳と神経」の外科で、脳とそれに接続する脊髄および末梢神経の異常を「手術によって」治療を試みる分野となります。

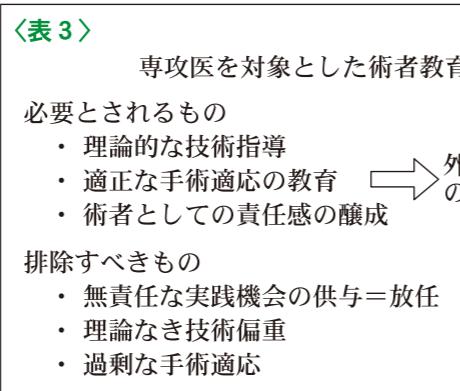
脳神経外科は、昭和40年以降、神経科学の発展と技術革新の両輪を推進力として飛躍的に進歩し、その結果、脳腫瘍・脳神経外傷・脳卒中・てんかん・不随意運動・脊髄等の多くの専門分野が分化し、その各々の分野において基礎医学から社会・臨床医学まで広い守備範囲でもつて、社会に貢献してきたわけです。そして、そのカツティングエッジ(最先端分野)として位置づけられるのが、そろそろ治療が始まろうとしているiPS細胞を用いたパーキンソン病治療です。

しかし、専門性の極めて高い細分化された医療が、地域医療の現場で求められているのかというと、それは違います。おそらく、我々脳神経外科医が地域で求められていることは、「外科医の目と技を持つ神経系総合医」であり、それは神経系疾患の初期治療に始まり、頻繁に遭遇するであろう脳血管障害、脳・脊髄外傷、脳腫瘍(これらの疾患は生死に関わることが多い)に、如何に迅速に、且つ「高度の医療」を患者さんに提供できるか、だと認識しています。

ある大学の求める治療とほぼ同じものが、当地域でも受けることができるところです。そして脳外科に関わる病気のことで必要とされるなら、極力「うちではできません・・・」と言わない、高い志を持っていることです。脳という臓器は極めて不確定要素の強い臓器(不明なことが多すぎる臓器)であり、時にうまくいかないことがあります。よつて、少しでもうまくいくように、コンマ数%でも成績が上がるよう、「重箱の隅をつつく」かの如く医療技術を高める努力を行っています。

もつとも、それと引き替えに退院後のきめ細やかなアフターケアが出来なくなつたことも事実です。「専門性が高い」ということは「専門バカ」ということです。我々がなんとか「専門バカ」にならないで医療が提供できているのは、当院の各科の医師や総合医である開業医の諸先生方のサポートがあるからです。このようなサポートをいたたきながら、全人的医療が地域全体として完結するよう努めています。

ており(表3)、当科でも同一の指導を行っています。



ご覧の通り、当院の存在意義としてかなり重要な部分を占めるものの一つに救急医療があります。それゆえ自ずと彦根市立病院脳神経外科の存在意義も、「救急医療を通じて地域医療に貢献していくこと」になります。金子隆昭院長(前脳神経外科部長)が院長就任にあたって、平成24年の京都大学脳神経外科教室年報に寄せた院長就任挨拶の中に次のように言葉があります。「たとえ満床でも救急車を断らないようにと病院医局の先生方には無茶なことを言ってきたように思いますが、どの先生も積極的に救急患者に対応してくれました。病院のメディカルスタッフの方々も大変協力的です」と、文字通り、救急が当院の屋台骨であるということを明確にした言葉です。

表2

圈内における本院の位置づけ

- 圈内唯一の公立(公的)病院
- 圈内唯一の急性期総合医療センター
- 救急告示病院
- 災害拠点病院
- 臨床研修施設指定病院

さて、ここで湖東医療圏内における当院の位置づけを明確にしておきます(表2)。

一方、彼らは数か月ごとのローテート(病院を順に回って研修すること)であり、頻回に担当医が変わってしまうことで患者さんや開業医の先生方に多大なるご迷惑をおかけしていることも事実です。しかし、彼らは地域医療を支える将来の脳神経外科医であり、ここは、彼らを当地域住民全体で育てているという寛大な気持ちで対応いただけると、彼らも安心して研修を受けることができるでしょう。以上、当科の紹介と診療スタンスについてお話をしました。次回からは、比較的関わる機会の多い脳神経外科疾患についてお話をいたします。



探検隊

○院内探検隊○ | 臨床工学科 |



臨床工学科
西村 にしむら
技師

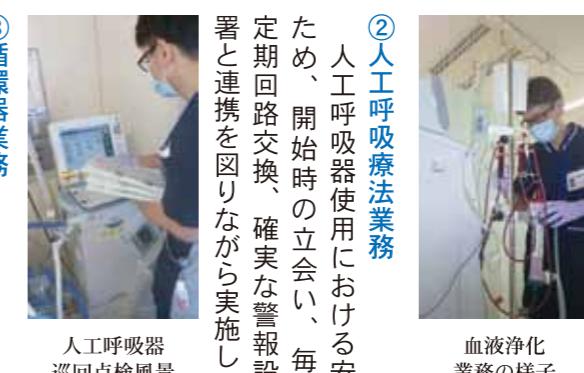
基
もとい



日ごとに暖かさを感じられるようになりますが、いかがお過ごしでしょうか。当科では、院内の医療機器の保守点検を行う『医療機器保守管理業務』と、生命維持管理装置の操作を行う『臨床業務』と大きく分けて2つの業務を行っています。

『医療機器保守管理業務』

①保守管理業務
院内の医療機器130機種、約920台以上を保守管理しています。その他の物も可能な限り修理にも応えており、安全に使用していただける医療機器を常時提供しています。



透析療法はもとより透析機器の保守点検を行います。また白血球除去(ELCA)、腹水濃縮、血漿交換、LDL吸着、幹細胞採取などの各種血液浄化療法にも取り組んでいます。その他にICU・CCU及び各病棟に出向し、各種血液浄化療法を行います。

『臨床業務』

②教育業務
医療機器安全セミナー・病棟学習会・トレーニング研修といった院内教育にも積極的に取り組みます。



カテール
業務の様子

務を行います。



臨床工学科
西村 にしむら
技師

基
もとい

○院内探検隊○

②教育業務

医療機器安全セミナー・病棟学習会・トレーニング研修といった院内教育にも積極的に取り組みます。

○院内探検隊○ | リハビリテーション科 |



リハビリテーション科主幹
鳥本 茂
とりもと しげる



理学療法士



作業療法士

リハビリテーション科について

みなさんこんにちは。リハビリテーション科のスタッフは、理学療法士11名、作業療法士6名、言語聴覚士3名を紹介させていただきます。

リハビリテーション科は、理学療法に分かれて専門的なアプローチを行っていきます。また、患者さんの病状に応じて脳血管疾患・運動器・心大血管・呼吸器・がんの5つの疾患リハビリテーションにて対応しています。また、患者さんの病状に応じて脳血管疾患・運動器・心大血管・呼吸器・がんの5つの疾患リハビリテーションは短くなりますが、いわゆることが多いようです。単に機能回復訓練を指すものではなく人間らしく生きる、自分らしく生きる権利の回復をするため

理学療法について

理学療法とは病気、けが、高齢、障がいなどによって運動機能が低下した状態にある人々に対し、運動機能の維持・改善を目的に運動、温熱、電気、水、光線などの物理的手段を用いて行われる治療法です。これにより、痛みの軽減、関節可動域、筋力の増強などを行い、基本的動作能力（座る、立つ、歩く等の動作）の回復を図ります。

作業療法について

作業療法では、日常生活動作に支障をきたしている人々に対して、機能訓練や動作の練習などをを行い、自宅退院や施設入所、社会復帰などに繋がるようサポートに努めています。特に座る、立つ、歩くといった基本的動作に加えて、食事・衣服の着脱・排泄・入浴など応用的動作に関して、それぞれの状態やニーズに応じ、訓練を進めていきます。

言語聴覚療法は、コミュニケーションが困難になる失語症、構音障害、食べる機能の障がいである言語聴覚療法は、コミュニケーションが難になります。リハビリテーションから述べさせていただきます。リハビリテーションは短くなりますが、いわゆることが多いようです。単に機能回復訓練を指すものではなく人間らしく生きる、自分らしく生きる権利の回復をするため

リハビリテーションについて

まずリハビリテーションから述べさせていただきます。リハビリテーションは短くなりますが、いわゆることが多いようです。単に機能回復訓練を指すものではなく人間らしく生きる、自分らしく生きる権利の回復をするため

おわりに

今後病院と地域が一体となり医療をすすめる、地域包括医療が始まります。我々スタッフも地域の研修会、地域を担っているスタッフとの交流を深め、地域の医療を担えるよう努力する所存であります。どうぞよろしくお願いします。



言語聴覚士

当院でのリハビリテーション業務の特徴

当院では「急性期のリハビリテーション」を中心に行っており、運動療法については、発症・受傷・手術後間もない超早期から集中治療室を含めたベッドサイドで開始します。関節可動域訓練や筋トレなどの身体機能訓練や心肺機能訓練、寝返り・起き上がり・座位保持・立ち上がり・車椅子移乗訓練など基本動作訓練などを行いながら積極的に早期の離床を図っています。

医療機器は年々高度になり、複雑化しています。その中で、臨床工学技士は現在のシャリストとして、チーム医療に欠かせない存在となっています。これらも絶え間ない進歩を続ける医療機器を通して、市民の皆様へ安全・安心な医療の提供をお手伝いさせていただきます。



いつも世話をしている熱帯魚の水槽の前に
集合した臨床工学科のメンバー

院内楽通信



爆走ひつじランナーズ ゴール！

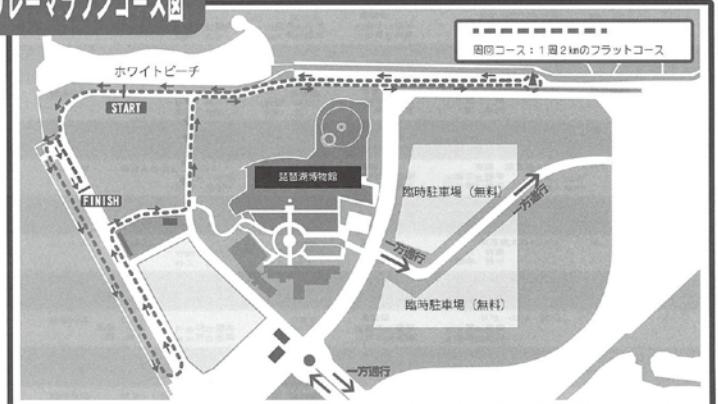
河崎一久（薬剤科） 近藤博紀（薬剤科）
杉谷義彦（消化器内科医師）澤渡綾子（救急センター）
牧田小代子（外来看護師）田中由里子（外来看護師）
肥後麻衣（消化器内科医師）肥後洋祐（市立長浜病院医師）
吉田 誠（彦根消防）



快走ひつじランナーズ ゴール！

堤 浩子（外来放射線科） 古川三千代（看護部）
馬場敏行（臨床工学科）馬場由香子（医療安全推進室）
上村千馨子（医療安全推進室）佐藤 彩（小児科医師）
左近上卓（彦根消防） 野田祐一（彦根消防）

リレーマラソンコース図



当日のスケジュール

- 8：10～ 受付
- 9：10～ 代表者ミーティング
- 9：20～ オープニングセレモニー
- 10：00～ 競技スタート
- 12：30～ 総合部門表彰式/部門賞表彰式
- 14：00 競技終了



杉谷医師
力強い走り！



肥後医師
華麗な走り！



緊張のたすきリレー
左近上氏→堤看護師



上村室長、もう少しです。
がんばれ！



緊張のたすきリレー
杉谷医師→吉田氏

平成27年12月5日（土）AM10時より、草津市において「第1回 e-radio 42.195 km」びわ湖リレーマラソン」が行われ、彦根市立病院から「爆走ひつじランナーズ」と「快走ひつじランナーズ」の2チームが参加しました。

【チーム発足の経緯】

マラソンブームのあおりから院内のあちこちで、「走っているで！」の声を耳にする機会が多くなりました。通勤途中のFMラジオから今回のリレーマラソンの案内が流れ、「こんなレースがあるなら、みんなで出たいなあ」とつぶやいてみたところ、口コミで老若男女!?の健脚が、あちらこちらから総勢17名のランナーズが参集しました！

【当日の様子】

前日の雨からうって変わり、比叡あろしの吹く中で好天に恵まれ、レース当日を迎えるました。当日に初顔合わせをするメンバー、事前にSNSを通して交流のあるメンバーさまざまでしたが、1周2kmのコースを絶妙なたすきリレーで、ひとりひとりが笑顔で快走！素晴らしいチームワークで時間内に完走することができました。

チーム名は病院のアイドルの羊さんにちなんで小児科 佐藤彩医師が命名（メエ～メエ～）。ランナーも羊になりきり爆走！快走！仮装大賞を内心ねらっていましたが、県内の他病院チームにあっさり持っていました。楽しいひとときを職種の垣根をこえて過ごすことができました。

【完走後の感想】

普段はあいさつ程度しかできない間柄でしたが、この参加を機会に日々の仕事でも交流をはかれることができました。団結し、一緒にゴールをする！そして、また次の機会をともにエンジョイする！そして次々に仲間が増えていく！そんないいチームになっています。次の予定も決まっていますので、ご興味のある方はぜひ、ご参集ください。



平成27年度 地産地消推進全国フォーラム

一般財団法人都市農山村交流活性化機構・全国地産地消推進協議会主催による「第8回地産地消給食等メニューコンテスト」にて彦根市立病院の病院給食に対する地産・地消メニューの取組が農林水産大臣賞に選定されました。

受賞の内容

- 応募数
- 部門／賞
- 受賞メニュー

全国 129 件
学校給食・社員食堂部門／農林水産大臣賞
【初夏の地産地消メニュー】滋賀県産ご飯、滋賀県産ビワマスの香草パン粉焼き、近江牛ミニチのそぼろ煮、彦根産きゅうりの酢醤油和え、ブラマンジエ(愛東メロンソース)



表彰式日時・場所

平成27年11月26日(木)
イイノホール&カンファレンスセンター(東京都千代田区)



前列 右から5番目の女性が大橋管理栄養士です。左どなり：斎藤副大臣、右どなり：服部栄養専門学校 服部校長

地産地消 病院食 農林水産大臣賞を受賞 (最優秀賞)



株式会社 東テスティバル
彦根市立病院事業所
砂畠洋宣

地産地消の取組にあたり

4年前より、取組を始めて以来、年を追うごとに協力していただける業者様・農家様が増えてきました。時には同じ野菜を納品できると複数の業者様から声をかけてもらうこともあります。収穫された野菜を献立に反映していく作業は、まだまだ調整が難しい事もありますが、地産地消の取組を広げていくよう、努力してまいります。

最後に

病院の地産地消の取組を患者さんや地域の方々にもっと知つてもらえるよう、地元の野菜を利用した新メニューの考案や、「地産地消イベント食」の頻度を増やすなどの取組をしていきたいと考えています。



受賞の喜びを表現する栄養科のメンバー

今後の取組

病院の食事は、患者さんの楽しみであるとともに、治療の一環でもあります。栄養状態をよくすることが免疫力を高め、回復を早めます。患者さんにおいで、栄養のある食事を食べていただけるよう、栄養科一同、頑張っていきたいと思っています。

取組の経緯

このたびは、一般財団法人 都市農山漁村活性化機構の地産地消メニューコンテストで最優秀賞である農林水産大臣賞を受賞することができ、大変うれしく思っています。また、関係各所の皆様にご協力いただき大変感謝しています。

彦根市農林水産課やJA、生産者の方達と協力、連携し、お米(秋の詩)をはじめ、1年を通して季節ごとの旬の野菜を使用するようにしました。冬は小松菜や大根、白菜、菜の花など多種の野菜や果物を使用しています。また、年4回、すべての料理に地元の食材を使用した料理を提供する「地産地消イベント食」を実施してきました。その結果、患者さんには大変好評で、アンケートでも70%以上の方が美味しいとの回答をいただいています。

栄養科の受賞のよろこび

栄養科科長 小野由美



かがやき 2016 vol. 14 13

小児科病棟 クリスマス会

平成27年12月19日(土) 14時~15時



学生さんによるハンドベルの演奏



栄養科からのケーキのプレゼント。



参加できなかつた子どもたちにも
ひこにゃんがプレゼントを
渡してくれました！



臨床工学科、青野さんの手作り ポップコーンのプレゼント



滋賀県立大学人間看護学部未来看護塾の学生さん・栄養科・臨床工学科・総務課のみなさんの協力のもと楽しいクリスマス会となりました。ご協力ありがとうございました♡ 小児科病棟スタッフ一同

第19回 彦根市立病院 健康講座

主催：彦根市立病院
共催：彦根市民健康サポートーズ俱楽部

テーマ 「万病のもととなるお口の病気」

- ・講演
　　お口の病気あれこれ　　歯科口腔外科　部長　山田剛也
　　口腔がんってなーに？　歯科口腔外科　医員　斎藤忠仁
 - ・健康弁当
　　栄養科　管理栄養士　小野由美　砂畠洋宣（東テスティバル）
 - ・いきいきコンサート
　　Re：田中寛子さん　善利さかえさん
 - ・健康体操
　　リハビリテーション科　言語聴覚士　近藤貴裕



大好評の「かむかむ弁当」と その内容を説明する



講演後、多くの方から
質問がありました



嚥下体操の指導をする
近藤言語聴覚士

平成27年11月28日（土）12時より彦根市立病院内の医療情報センターにて、第19回彦根市立病院健康講座を開催し、80人を超える市民の方の参加がありました。

彦根市民健康サポートーズ俱楽部の辻川さんの司会で始まり、栄養科によるポリフェノールたっぷりの健康弁当（かむかむ弁当）が用意され、ほとんどの方に美味しいという感想をいただき、用意したレシピを多くの方が持ち帰られました。

食事、いきいきコンサートの後は、山田医師・斎藤医師による「お口」にまつわる病気をテーマにした講演が行われました。両講演とも大好評で、講演後は、多くの方が質問をされていました。また、近藤言語聴覚士による嚥下体操も「自分で気軽にできる体操」ということで大変好評でした。



明日から、これで人を助けられます！



手術室は8室もありました



たくさんの検査ができるのでびっくり！



屋上のヘリポート 天気も良く気分も和みます



5日間でお互い、すっかり仲良くなつて、最後は積極的に意見交換ができました。



患者さんと一緒に折り紙をしました



電動車いすに乗ってみました



ベッドを移動するのもたいへん！



心電図のとり方を教わりました



CTでは体の中がこんなふうに写るんだ



ジェネリック医薬品とは？
薬剤師さんに教えていただきました

平成27年度彦根市中学校 チヤレンジウイーク職場体験

『目的』

事業所などの職場で実際に働くことを通し、働くことの意義や喜びなどを体得する。事業所で働く人々と交流することで、自分の生き方を考える機会とし、進路選択できる力や将来、社会人として自立できる力を育てる。

『日程』

- 11月12日(木) 看護部、5B・6A・7B病棟
- 13日(金) 5B・6A・7B病棟
- 16日(月) 4B・8B病棟、ヘルピート、栄養科、臨床工学科、手術センター、救急センター、etc.
- 17日(火) 臨床検査科
- 18日(水) 薬剤部、放射線科



明日から、これで人を助けられます！



手術室は8室もありました



たくさんの検査ができるのでびっくり！



屋上のヘリポート 天気も良く気分も和みます



5日間でお互い、すっかり仲良くなつて、最後は積極的に意見交換ができました。



患者さんと一緒に折り紙をしました



電動車いすに乗ってみました



ベッドを移動するのもたいへん！



心電図のとり方を教わりました



CTでは体の中がこんなふうに写るんだ



ジェネリック医薬品とは？
薬剤師さんに教えていただきました

糖尿病チームの活動報告

Diabetes Team in Hikone Municipal Hospital

背景

最新の調査では、国民の10人に1人は糖尿病であり70歳以上では男性の4人に1人、女性の6人に1人は糖尿病であると報告されています。糖尿病チームでは、日々の診療においてチームで糖尿病患者さんのサポートをするほかに、糖尿病に関する講演会やウォークラリーなどのイベント開催や糖尿病医療スタッフ（滋賀糖尿病療養指導士）育成・運営のサポートも行っています。

糖尿病連続講座

糖尿病地域医療の発展を目指して、彦根市内のクリニックや診療所の医師、看護師など医療スタッフ向けに連続講座を開催しています。当院の糖尿病専門医、糖尿病看護認定看護師、糖尿病療養指導士の資格を持った各スタッフが担当しています。



糖尿病のシンボルマーク
【ブルーサークル】



彦根城のブルーライトアップ
元薬剤部 部長 小財氏撮影

彦根みずうみの会 料理教室

平成26年に糖尿病患者会「彦根みずうみの会」を設立して患者さんの療養生活をサポートしています。
患者会の活動の一つとして、料理教室を開催し食事療法の啓発を行っています。

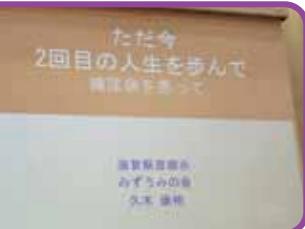


県内7施設から
150名が参加



日本糖尿病協会近畿地方会

平成27年11月14日(土)に京都で開催された日本糖尿病協会近畿地方会で滋賀県代表として彦根みずうみの会会長の久木康裕さんが自らの体験記を発表されました。



その薬
必要ですか?



緩和ケア科
黒丸尊治

緩和ケアかわら版

近年、高齢者に処方される薬が見直されています。昨年4月には日本老年学会などが、高齢者には「中止を考慮すべき薬」として50種類を発表したのもその一環です。特に慢性疾患に対しては、一度薬が処方されると、なかなか中止してもらえないというのが現状であり、緩和ケアの患者さんの場合はこれが問題になります。

ある時、腹水が溜まった肝臓がん末期の患者さんが紹介で入院してきました。その患者さんが飲んでいる薬を見ると、降圧剤3種類、コレステロールの薬1種類、骨粗鬆症の薬1種類、痛風の薬1種類、胃薬1種類の合計7種類でした。入院時の血圧は $120/60\text{ mmHg}$ であり、食事もあまり食べられなかつたので、残された時間はあと1ヶ月くらいだろうと思われました。

これらの薬は全て慢性疾患に対するものであり、今は全く不要どころか、かえって危険な薬ですらあります。患者さんは、食事が食べられなくても、律儀に薬だけは飲んでいたようですが、今は不要であり、その分食事をとる方が大切だと説明したところ、「薬を飲む負担がなくなり楽になりました」と喜んでいました。

患者さんへの負担を軽くする意味でも、末期がんの患者さんには、不要な薬は早めに整理してもらいたいものです。



花しょうぶの会

相手の立場や思いに寄り添い共感できる会になるよう今後も企画運営していくことを考えています。



ご遺族の中には、「ここに来るだけで泣けてしまうが安心して泣くことが出来てホッとした」「たくさん思い出せ良い時間を過ごせた」との声をいただきました。
グリーフケアは悲嘆にくれている人をケアし、癒す活動です。悲しみにくれている人が自ら、その悲しみと向き合つて乗り越えていくようにサポートすることです。

救急看護認定看護師
林 薫
はやし かおる

いのちを「救う」看護

脳卒中リハビリテーション
看護認定看護師
本江 真人
ほんこう まさと

「看守る」看護

訪問看護認定看護師
伊部 恵美子
いべ えみこ

「継ぐ」看護

日本看護協会の平成27年認定看護師試験において、昨年7月に当院では3名の新たな認定看護師が誕生しました。

これまでに当院では15名の認定看護師がそれぞれの分野で活躍をしてきました。今回新たに認定看護師として加わった3名の認定看護師はまさにこれから彦根地域に必要とされる分野です。医療の質も大きく変化をしなければなりません。救急認定看護師は「いのちを「救う」看護を、そして脳卒中リハビリテーション看護師は「看守る」看護を、そして訪問看護認定看護師は「継ぐ」看護を、現場での看護上困ったことや、判

看護認定看護師の林薫さんです。これまでに当院では15名の認定看護師がそれぞれの分野で活躍をしてきました。今回新たに認定看護師として加わった3名の認定看護師はまさにこれから彦根地域に必要とされる分野です。医療の質も大きく変化をしなければなりません。救急認定看護師は「いのちを「救う」看護を、そして脳卒中リハビリテーション看護師は「看守る」看護を、そして訪問看護認定看護師は「継ぐ」看護を、現場での看護上困ったことや、判

〇期待しています！

これらを励みに多くのスタッフに支えられ、現場で活躍しています。よろしくお願いします。



専門領域担当 看護科長
北川智美
きたがわ ともみ

今後の方向性を検討し、これから認定看護師として、どのような事を目標にして活躍していくのか「所信表明」を掲示しました。

それぞれの分野で現在問題となっていることを明確にして、今後どのように活躍するかという表明です。その掲示版のところにそれぞれがポストを置き、職員のみなさんからの声をいただきました。

以下抜粋してご紹介いたします。

〇いつもありがとうございます。患者さんのみなならずご家族にも対応くださいまして助かっています。今後ともよろしくお願いします。

〇認定看護師、合格おめでとうございます。研修もわかりやすく、現場にいてくれるとホッとします。これからもよろしく。

病院と地域 との連携

合同研修会



相談支援

受診・入院にともなって生じる様々な相談に対応します。

「悩まれたらまず相談を」。一人で抱え込まないでください。

小児から高齢者までご相談いただけます。



在宅支援

地域のケアマネージャー・包括担当・訪問看護師・かかりつけ医・行政などと連携し
「安心してご自宅などで過ごしていただく」
ように支援します。

医療相談室

退院調整・転院調整

入院された直後から「どうしたら良いの?」「今後の療養先」「医療費」などについて・・・

各病棟の医療ソーシャルワーカーが相談をお受けし対応します。「患者さんやご家族の意向」を確認し支援します。

✿✿ 医療相談室からこんにちは✿✿

近頃「地域包括ケア」という言葉が注目されています。湖東地域では、急性期・回復期・維持期・在宅との支援連携が整いつつあり、「地域力」を感じています。私たちは、「患者さんやご家族の、また、地域の方々の声に耳を傾けてそれぞれの課題と一緒に考えていきたい」、「地域の皆さんが安心できる、そんな仕事をしていきたい」と日々窓口を開いています。

メンバーは、医療相談室長 看護師(藤居)、室長補佐 医療ソーシャルワーカー(乾)、他医療ソーシャルワーカー4名が対応します。病棟ごとに担当していますのでお気軽にご相談ください。

地域をつなぐ相談室

転院相談

入院の相談

脳卒中地域連携パス
大腿骨骨折地域連携パス
包括ケア病棟 etc.

早く安心な対応

傾聴姿勢

在宅・一般病院から
相談対応

地域との連携

- ・医療機関、介護施設等からの相談対応
- ・ケアマネ、地域包括
- ・湖東地域ネットワーク会議
- ・チームケア研究会など

豊かな地域を 創り出す環境

退院の支援

在宅・在宅系施設への
入所を希望する方の
相談対応

医療・福祉の相談

- ・医療保険、介護保険
- ・精神、身体、難病
- ・地域サービス
- ・医療や看護に関することなど

医療社会部だより

医療相談室と地域医療連携室が、 1階に集合して執務することになりました！

このたび、これまで2階にありました「医療相談室」が1階に移動し、「地域医療連携室」と共に同じフロアで執務することになりました。みなさまには、今までにも増して医療相談室や地域医療連携室をご利用いただきやすい環境になりました。
今後とも、よろしくお願ひいたします。



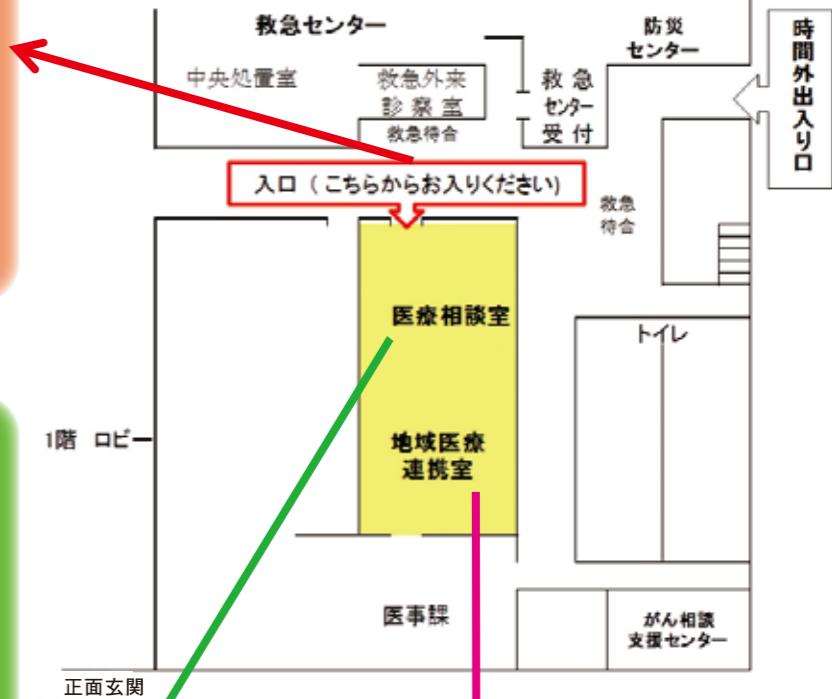
このように、なりました♪



藤居とも江医療社会部次長
医療相談室長



扉を開けると、カウンターがあります。



診察・検査予約はこちります。



堤 健郎 医療社会部 参事
地域医療連携室長

これであなたも10歳若返る!?

腰痛予防体操

その12～体幹筋(腰・お腹・背中)・両脚のトレーニング step8～

前回は片脚で立ってバランスをとりながら行うトレーニングを紹介いたしました。今回は、片脚で立って、ダイナミックに動くトレーニングを紹介いたします。この運動は、片脚で立ち反対の脚を動かすことで体幹は、支える脚、動かす脚を止める必要があり、体幹の安定性、脚の力ができます。膝などに痛みのある方、片脚立ちのできない方は、負荷が大きいのでこの運動をしないようにしてください。

<体幹と両脚のトレーニング>



① 棒、椅子の背もたれなどを写真のように左手で持って、足を少し開いて立て立ちます。



② 両膝がつま先とそろのように膝を曲げます。このとき、身体はそらないように頭を曲げて少し前かがみになります。こうすることで、太ももの前と後ろの筋肉が同じように働きます。



③ ②の姿勢のまま左足を前後にステップします。1秒に2回の速度で行います。10～13回ほど行います。



④ ②の写真の状態にします。



⑤ ②の写真の姿勢のまま今度は足を外に開いたり内に閉じたりします。これも1秒に2回の速度で10～13回ほど行います。

以上終わりましたら、次に棒を右手に持ち替えて右足を動かします。左右を1セットにし、一回に2～3セット、休憩を入れて行います。週3～4日行うと効果的です。

*現在治療中の方は必ず医師の指示のもと行うようにしてください。また、血圧の高い方は無理のない範囲で行ってください。



生まれてきてくれてありがとう

愛いっぱいのお産
院内助産所



～助産師を募集しています～



産婦人科医師が3名となり、お産の受け入れ体制が充実しました。

これまでの院内助産所でのお産は妊娠経過が正常な妊婦さんを対象としてきましたが、新体制ではすべての方にお産していただけるようになります。

助産師が見守る自然なお産を基本とし、医師立ち合いが必要なお産は医師と助産師で対応します。

小児科医師のバックアップもあります。

産婦さんに寄り添い、ぬくもりと安心のあるお産をしていただけるように、一緒に支えてもらえる助産師を急募しています。

お母さんと赤ちゃんが大好きな方、助産師のちからを發揮していただける方をお待ちしています。まずはご連絡ください。

【お問い合わせ先】

彦根市立病院 職員課 電話 0749-22-6050 (代)



彦根市立病院の 経営改革



平成19年12月

総務省「公立病院改革ガイドライン」提示

- ①経営の効率化
- ②再編・ネットワーク化に係る取組
- ③経営形態の見直し(3つの視点)

「彦根市立病院改革プラン策定委員会」の設置

平成21年2月

「彦根市立病院改革プラン」(旧改革プラン)策定

- ・4疾病(がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病)
- ・5事業(救急医療・小児医療(小児救急)・周産期医療・災害医療・へき地医療)
- 経営改善(黒字化)をめざす

〈改革プランの実施状況の点検・評価〉

「彦根市立病院改革プラン評価・経営形態検討委員会」の設置

「平成23年10月報告書「地方公営企業法全部適用への変更が最適」

平成25年3月

「彦根市立病院中期経営計画」策定

- 5本柱(救急・小児救急・周産期・循環器疾患・がん・地域連携・在宅療養)

「彦根市立病院改革プラン」に続く経営改革の取組。

行動計画を策定し、進捗管理会議や業務改善委員会で協議

平成27年3月

総務省「新公立病院改革ガイドライン」提示

- ①地域医療構想を踏まえた役割の明確化
- ②経営の効率化
- ③再編・ネットワーク化
- ④経営形態の見直し(4つの視点)

「彦根市立病院新改革プラン策定委員会」の設置

平成28年4月

「彦根市立病院新改革プラン」(新改革プラン)策定

- ・収益増加、マネジメント、経費抑制、高機能病床の検討、連携強化の取組
- 経営改善・安定化をめざす

地方公営企業法「全部適用」への経営形態の移行

- ①経営責任の明確化(病院事業管理者の設置)
- ②専門職員の確保
- ③独自の人事管理システムの導入、その他

変化に対応できる柔軟性を持ち、改革を実行できる職員」となつて、市民の皆様の信頼と期待に応えてまいります。また、働く人が正しく評価され、職務に励めるよう平成27年度中に市立病院独自の人事評価システムを構築し、試行を重ね、平成28年度から新ガイドラインに沿って新改革プランを策定してまいりました。

また、働く人が正しく評価され、職務に励めるよう平成27年度中に市立病院独自の人事評価システムを構築し、試行を重ね、平成28年度から新ガイドラインに沿って新改革プランを策定してまいりました。

がん患者サロン りらく彦根

りらく彦根は、がん患者さんやそのご家族の交流の場です。

がんと向き合っている者同士だから分かり合えることがあります。仲間と一緒に話し合って、泣いて、笑って思いを分かち合いませんか。心をすこし軽くしてみませんか。

開催日:毎月第4火曜日(祝日の場合は第3火曜日) 13:00~15:00

会場:彦根市立病院 3階 講堂(院内図書室を使用することもあります。)

参加費:無料(飲み物等必要な方はご持参ください)

予約は不要、一回だけの参加もOK!

開催時間内なら、いつでも入退場いただけて結構です。お気軽に立ち寄りください。



ピアソポーターの皆さんです

◆あ問合せ・あ申込み先◆

彦根市立病院 がん相談支援センター

電話:0749-22-6050(代)

Eメール:gansoudan@municipal-hp.hikone.shiga.jp



アメニティセットのご案内

平成28年2月8日(月)から、当院では患者さんが入院中に必要とされる『寝巻・タオル類』の専門業者によるレンタル(有料)を導入しました。

- このレンタルは、①院内の衛生管理・環境整備の徹底
- ②患者さんへのサービス向上とご家族への労力負担軽減
- ③患者さんと来院者との区別(防犯上の管理)

を目的としていますので、入院される方にはお申込みいただくことを推奨しています。ご理解・ご協力のほどよろしくお願いします。

アメニティセットアイテム一覧

- ・Aタイプ 寝巻(甚平・浴衣・介護寝巻のいずれか)・タオル・日用品 395円(税別)
- ・Bタイプ Aタイプ+伸縮性寝巻 500円(税別)

日額クリーニング付レンタル

- ・寝巻(甚平・浴衣・介護寝巻のいずれか)
- ・タオル(バスタオル・フェイスタオル)



伸縮性のあります
寝巻トキもです。
寝巻・タオルは高熱殺菌
クリーニングです。

お申込の方は下記のサービス日用品を
必要な方にご使用いただけます



日用品は、患者さんの症状に合ったものを看護師が配布します。
以下のものはセットに含まれていません。患者さんでご準備ください。

洗面器、上着、下着、靴下、スリッパなど

※請求は業者から「ご利用翌月の10日前後」に請求書が届きます。

※業者に関しましては、審査会設置の上で選定しています。

診療予定表(平成28年3月1日現在)

診療科		月		火		水		木		金	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	1診(総合診)	三瀬美保子		安原 治		清水 敦子		中野 顯(第X週1週) 日村好宏(第X週2週) 綿貫正人(第X週3週) 日村好宏(第X週4週) 矢野秀樹(第5週)	田辺 理恵 杉谷 義彦	大野 洋一 (第1-3-5週) 山本 祐二 (第2-4週)	米倉 伸彦
消化器内科	2診	來住 優輝	來住 優輝	仲原 民夫	仲原 民夫	杉谷 義彦	杉谷 義彦	肥後 麻衣	田辺 理恵	米倉 伸彦	米倉 伸彦
	3診(予約制)	肥後麻衣(非予約)	肥後麻衣(非予約)			『腎臓内科』牧野 慎市					
血液内科	4診(予約制) 午後:再診	米倉 伸彦		杉谷 義彦		田辺 理恵		仲原 民夫		來住 優輝	
	5診(予約制) 午後:再診	浅井 愛		吉川 浩平	吉川 浩平	浅井 愛	浅井 愛	吉川 浩平	吉川 浩平	吉川 浩平	
糖尿病代謝内科	6診(予約制) 午後:再診	矢野 秀樹		黒江 彰	菱澤方洋(第1-4週)	矢野 秀樹	矢野 秀樹	黒江 彰	黒江 彰	菱澤 方洋	菱澤 方洋
	7診 再診(予約制)	《膠原病》 中島 俊樹 (予約制)	《膠原病》 中島 俊樹 (予約制)	原田 貴成 菱澤 方洋(第2-3週) 田原裕美子(第4週) 近藤八重子(第5週午前)		黒江 彰		原田 貴成		岩崎 順博	
循環器科	1診(午後は予約制)	綿貫 正人	綿貫 正人	下司 徹		中野 顯		日村好宏(第1-3週) 中野 顯(第2-4週)		日村 好宏	相本 晃
	2診(予約制)	日村 好宏	眞鍋奈緒美	日村 好宏	中野 顯(第1-3週) 佐藤裕介(第2-4週)	池田 智之				池田 智之	綿貫 正人
	3診(予約制)	宮澤 豪			宮澤 豪			下司 徹			
脳神経外科	PM外来(第1-3週)										
	1診(予約制)	金子隆昭(予約のみ)		中久木卓也		井坂 文章		村田 大樹		金子隆昭(予約のみ)	
神経内科	2診	中久木卓也		杉田 義人		村田 大樹		杉田 義人		井坂 文章	
	1診(午後:再診予約制)	島 淳/奥宮 太郎		梶 誠兒/舛田 宏彰		谷岡 洋介/佐藤 和明		中谷 光良/十川 純平		十川 純平/伏屋 康寛	
整形外科	1診 初診	堀 裕彦	—	福田 章二	—	角田 恒	—	藏満 紀成	—	光石 直史	—
	2診 再診(予約制)										
	3診 再診(予約制)	福田 章二	—	角田 恒	—	光石 直史	—	堀 裕彦	—	藏満 紀成	—
形成外科	4診 間節外来(予約制)				《股関節》秋山 治彦(第1-3週)			《膝関節》角田 恒			
	1診	笹尾 卓史		笹尾 卓史		大西早百合		大西早百合		伊藤 文人	
	2診	伊藤 文人		大西早百合		伊藤 文人		笹尾 卓史			
皮膚科	再診(予約制)		伊藤 文人 笹尾 卓史 大西早百合				《複雑外來・創傷外來》 伊藤文人/笹尾卓史 大西早百合				
	1診(午後:再診予約制)	福永 真未		本田真一朗		福永 真未		本田真一朗		米田 健祐	
	2診(午後:再診予約制)	本田真一朗	本田真一朗	米田 健祐	米田 健祐	本田真一朗	本田真一朗	米田 健祐	米田 健祐	福永 真未	福永 真未
呼吸器科	3診(予約制)					藤本徳毅(第4週)	福永 真未				
	1診	林 栄一(第2-4週)	林 栄一(第2-4週)	月野光博(第1-3週) 渡邊勇夫(第2-4週)		林 栄一				岡本 菜摘	
	2診	月野 光博		《禁煙外来》(予約制) (9:30~11:00)		渡邊 勇夫		月野 光博		渡邊 勇夫	
心療内科 緩和ケア科	予約制					西山順滋(初診)	西山順滋(15時まで)				
	予約制		黒丸 尊治		《がんストレス外来》 黒丸 尊治					黒丸 尊治	
外科	1診(初診)	赤松 信		龍見謙太郎		赤松 信		寺村 康史		安田 誠一	
	2診(再診)	切手 俊弘		安田 誠一		寺村 康史		平田 渉		赤松 信	
	3診(再診)			岡村 見		切手 俊弘		岡村 見		龍見謙太郎	
	4診				○						
	乳腺外来(予約制)										
泌尿器科	1診	鄭 裕午		馬場 雅人		長谷 行洋		馬場 雅人		長谷 行洋	
	2診	長谷 行洋		成田 充弘		多和田真勝		鄭 裕午		馬場 雅人	
歯科口腔外科	眼科	1診	寺尾 信宏	中井 義典				日村千穂子	日村千穂子		
	1診(紹介外来)	山田 剛也		前田 康弘		斎藤 忠仁		山田 剛也		斎藤 忠仁	
	2診(予約優先)	斎藤 忠仁		神谷 昇		前田 康弘		斎藤 忠仁		平井 真哉	
	3診(予約制)	平井 真哉		山田 剛也		神谷 昇		神谷 昇		山田剛也/前田康弘	
	デンタルインプラント外来(予約制)							○ 金山 景錫(第1週)		○	(第2-3週)再診のみ
	頸関節外来(予約制)		村上賢一郎(第4週)				○			○	
	専門的口腔ケア指導(予約制)		○				○				
	口腔腫瘍外来(予約制)		○(第2週)								
	外来手術(予約制)		○	○	○	○	○	○	○		
耳鼻咽喉科	口腔機能管理(入院のみ)	○	○	○	○	○	○	○	○		
	歯科摂食機能療法外来(予約制)		渡邊 真央		渡邊 真央		渡邊 真央		渡邊 真央		
小児科	1診	片岡 健一		片岡 健一		片岡 健一		片岡 健一		片岡 健一	
	1診(午後:予約制)	安部 大輔	《アレルギー外来》 石上 育	西島 節子	《神經外来》 栗屋智就(第2-4週)	神田 健志	《内分泌外来》 畠 郁江(第2-4週)	佐藤 彩	《腎臓外来》 澤井俊弘(第2週) 奥田雄介(第3-4週)	石上 育	西島 節子
	2診(午後:予約制)	神田 健志	安部 大輔	佐藤 彩	神田 健志	石上 育	石上 育	西島 節子	佐藤 彩		
	3診										
	健診センター										
	1診 妊婦健診	阿知波成行		土岐 利彦		高原 得栄		土岐 利彦		高原 得栄	
産婦人科	2診 妊娠初期・婦人科	土岐 利彦		高原 得栄		宇田さと子		高原 得栄		土岐 利彦	
	3診 婦人科	高原 得栄		阿知波成行		阿知波成行		阿知波成行		阿知波成行	
放射線科	画像診断外来					河上 聰					
	放射線治療	井口 治男				光吉 隆真					

※診察受付時間は、初診・再診 午前8時から午前11時まで(予約の方は優先) ※整形外科・神経内科・心療内科の診療は、紹介状をお持ちの方のみとさせていただきます。
※眼科・歯科口腔外科の診療は、予約・紹介状をお持ちの患者さんを受診して下さい。※「○」印は同科医師で交替。

院内季節の花だより



花の名前: プルモナリア

原産国: ヨーロッパ

花言葉: 気品、孤独な魂

咲き場所: 『こもれびのガーデン』

開花時期: 3~5月



花の名前: カンパニユラ(釣鐘草)

原産国: 地中海沿岸

花言葉: 感謝・誠実・節操

咲き場所: 救急入口

開花時期: 5~6月



花の名前: モナルダ(矢車薄荷)

原産国: 北アメリカ

花言葉: 燃え続ける思い

咲き場所: リバーサイドガーデン

開花時期: 6~9月



花の名前: アンチューサ(アフリカワスレナグサ)

原産国: 南アフリカ

花言葉: あなたが信じられない

咲き場所: リハビリテーション棟

開花時期: 4~7月

彦根市立病院

〒522-8539 滋賀県彦根市八坂町1882
TEL:0749-22-6050 FAX:0749-26-0754
<http://www.municipal-hp.hikone.shiga.jp/>

外来受付時間:

午前8時から午前11時(予約診は午後4時まで)

休診日: 土曜日、日曜日、祝日および年末年始